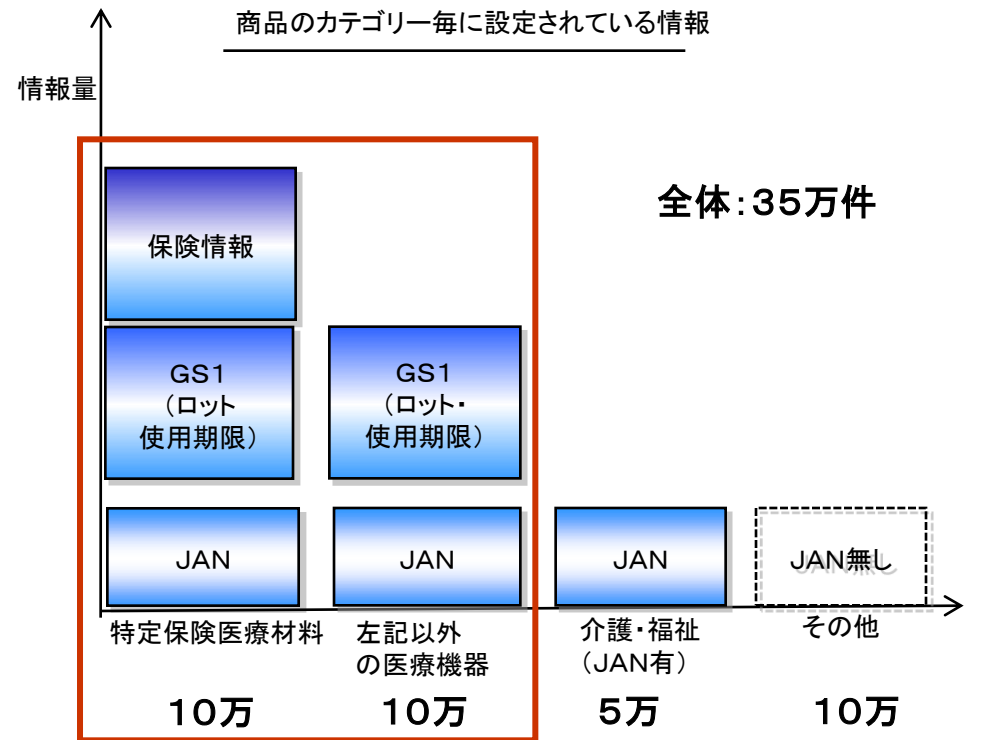


当社の商品マスタにおける医療機器の割合

商品マスタマスタ	
特定保険医療材料や 高度管理医療機器	10万件(28.6%)
上記以外の医療機器	10万件(28.6%)
介護・福祉用品など	5万件(14.7%)
その他	10万件(28.6%)
合計	35万件(100%)

※その他:家電、文具、衣料、医療機械修理部品、日用雑貨など
 ※同一商品でも、流通経路の違いから複数登録されることもある



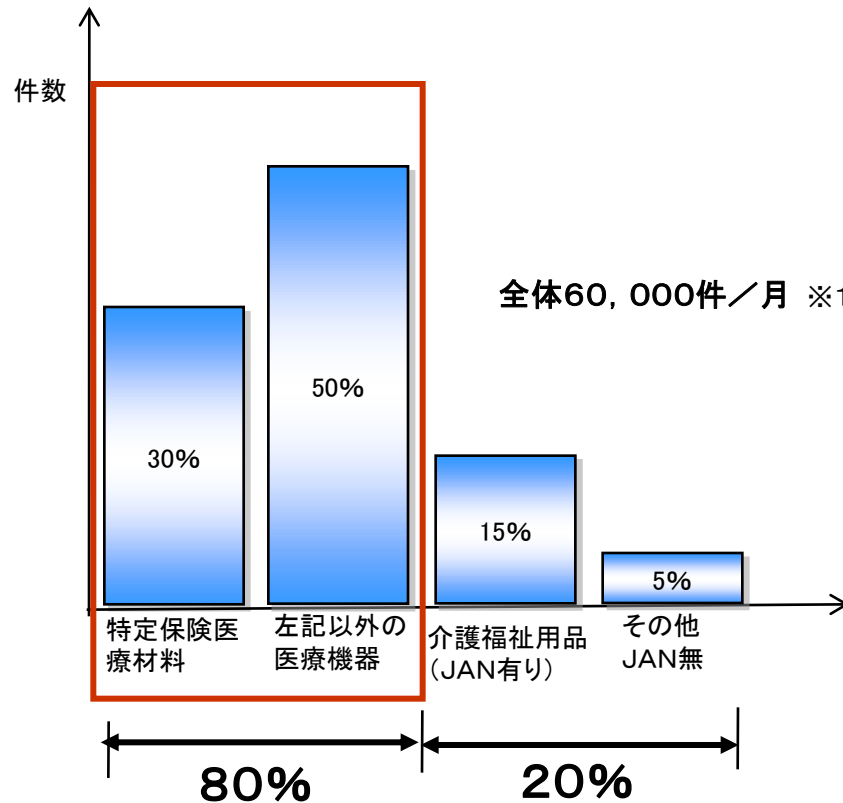
医療機器に分類されるものが57%

医療機器以外が43%

当社で使用している材料マスタ件数とその内容を見てみると、医療機器といわれるものは全体の57%である。もう少し多いと思われるが実際は、雑貨類、介護関連商品など病院で使われるすべてのものが対象となっているためこのようになっている。

日々の取り扱いに占める医療機器の割合

物流センターの取扱量(入荷件数より)



当社では基本的に商品の流通を物流センターで集中管理しています。その中で医療機器(クラスI~クラスIV)の入荷件数(在庫含む)は5万件余りになり全体の80%を占め、即ち医療機器以外の商品が20%も販売されていることとなります。(ある1ヶ月の実績から)

医療機器については、入荷から在庫管理・出荷までのトータルをバーコードを用いての管理を実施しています。

そのため、全体の80%については、コードを活用した管理を導入している。一方で20%についてはいまだ手作業(伝票処理)となっている。そのため、処理に関しては非常に工数がかかるというのが現状である。

※1 平成21年4月1ヶ月間の取引から

GS1バーコード表示がない商品例

JANのバーコード表示がある商品



白衣



手袋



シート



絆創膏

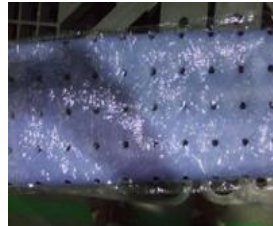


サポーター

バーコード表示がない商品



テープ



マット



濃盆



アメゴム



シューズ

参考までに、実際に取り扱われている材料の中で「JANコードのみついている商品」、「JANコードすらついていない商品」の一例は上記のようなものがあります。

当社の実態から言えること

- 医療機器のコード化は数年前に比べ非常に進んできているといえる。特に、商品へのコード添付は日々の業務の中から、多くなってきた事が実感出来ている。
- 一方で、非常に多くの製品を取り扱っていることから、販売業者それぞれが商品マスタを常に最新の状態にすることが非常に難しいことも事実である。MEDEIS-DCのデータベースを参考にしてはいるが、ダブリや入力されてない空白の項目があり、全てを使用することもままならない状態である。このことは販売側だけでなく、医療機関にとっても課題だと思われる。
- 特定保険医療材料から雑貨のような物も医療現場では必要であることは事実であり、今後は、製品分類など見てデータベースの整備を行っていく必要があると考えている。